

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

広島県立西条農業高等学校
教諭 大平 倫子

- 1 実施日：令和7年11月20日（木）3限（10：45～11：35）
- 2 学年・学級：第1学年BF組 音楽選択者24名（男子14名、女子8名）
- 3 場所：音楽教室
- 4 題材名：言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう
～ドイツ歌曲「野ばら」の学習活動を通して～
- 5 教材曲：「野ばら」（独唱）ゲーテ作詞／シューベルト作曲

6 題材について

(1) 題材観

本題材は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）の芸術「音楽Ⅰ」における「A表現」（1）歌唱の「歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。」、イ（イ）「言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解すること。」、及びウ（ウ）「創意工夫を生かした歌唱表現にするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。」に関する資質・能力を育成することをねらいとして設定した。併せて、〔共通事項〕（1）の「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。」について指導することとする。

本題材では、生徒自ら表現意図を持ち、「野ばら」の歌唱表現を工夫する過程で、ドイツ語にふさわしい発声や言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けられるようにしたい。この学習を支えとして、生徒が感じ取ったドイツ語の語感などの特性とドイツ歌曲にふさわしい発声との関わりを実感を伴って理解できるよう指導する。

(2) 生徒観

1学期最初の授業アンケートで、今まで外国語の歌を歌ったことがあると答えた生徒は70%で、そのうち、52.9%がイタリア語、23%が英語であった。ドイツ語の歌は全員が初めてである。また、外国語の曲に興味があるかという質問に対して、あると答えた生徒は70%以上で、歌の授業が好きであると答えた生徒が83%で、コロナ渦も落ち着き日本語以外の言語の歌の授業も盛んに行われてきたことが推察できる。また、歌うことが好きで、外国語の曲を歌うことに興味を示している生徒が多数いる。1学期の中旬に「O sole mio」の独唱の授業では、イタリア語の語感を掴み、音程を取ることはできたが、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫する生徒は少なかった。

本クラスは、生物工学科と食品化学科と科が違うクラスではあるが、合唱でのパート活動や、鑑賞での班活動などで意見を自由に発言する場面もあり、表現活動をしやすい雰囲気である。外国語の歌になると男子生徒の方が積極的に声を出す傾向がある。女子生徒の高音域も生かせるよう、響きを保てられるような発声を意識し、自信をもって授業で歌えるよう心掛けたい。

(3) 指導観

ドイツ歌曲「野ばら」は1815年に作曲された歌曲で、ゲーテの詩に基づいている。歌詞は自然の中に咲く野ばらの儂く美しい姿を描写しており、その旋律はシンプルでありながら心に残るものである。この詩には、シューベルトやヴェルナーをはじめとする多くの作曲家が曲を付けており、その数は100曲以上にもものぼるといわれている。歌詞は、恋愛の儂さや美しさを象徴しており、シューベルトの音楽的表現力が光る作品である。

生徒の学習状況を踏まえて、①「野ばら」の歌詞の言葉の意味を知って、歌詞が表す情景や心情と楽曲全体の曲想Lieblichとの関わりを理解した上で、②ドイツ語の特性であるウムラウトや二重母音、連続する子音、語尾の子音の発音など実感を伴って歌唱に生かせるよう、ドイツ歌曲にふさ

わしい発声や詩の朗読を反復する。②の学習を支えとして、③ドイツ語のアクセント(第1音節)や抑揚と「野ばら」の旋律の関わりについて、歌うことを通して感じ取る。そして、①～③で身に付けた技能や理解したことを生かして、第6小節目から第10小節目までの旋律の変化の歌唱表現を工夫する。具体的には、第6小節のドッペルドミナントから属調への一時的な転調や旋律における躍進行やフェルマータの効果を歌詞やピアノの伴奏を手掛かりとして表現したいイメージを膨らませ、歌唱表現を工夫する。指導の手立てとして、表現したいイメージや工夫をワークシートに記述し、そのイメージが実際に歌唱表現できているか聴き合っ意見交流し、さらに表現を工夫するペアワークを設定する。また、言語活動を行った上、歌唱表現を試行錯誤する場面でペアワークを取り入れる。音程や音域に不安のある生徒たちに個別、継続的に指導したり、教師との対話を支えとして自分の意見を発表させたりして、授業に参加することの充実感をもたせて学習に取り組ませていきたい。最終的には、ドイツ語の語感を生かし、ゲーテの詩「野ばら」の世界観が自己のイメージを持って表現できる独唱にしたい。

7 題材の目標

- (1) ドイツ歌曲「野ばら」の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを意識して歌う技能を身に付ける。 【知識及び技能】
- (2) ドイツ歌曲「野ばら」の速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) ドイツ歌曲「野ばら」のドイツ語の特性と曲種に応じた発声に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を高め、音楽を愛好する心情を育む。 【学びに向かう力、人間性等】

8 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ドイツ歌曲「野ばら」の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思 ドイツ曲「野ばら」の速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	態 ドイツ歌曲「野ばら」の旋律とドイツ語の特性と曲種に応じた発声に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

9 題材の指導と評価の計画（全 10 時間）

次	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		< >内は評価方法		
第一 次	<p>◆ドイツ歌曲「野ばら」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。</p> <p>○「野ばら」の詩を日本語で朗読し、グループで詩の内容を協議する。 ○2曲の演奏を实际聴いて、同じ詩が作曲家によって全く違う曲になる要因を感じ取り、根拠を持って評価し、ワークシートⅠに記述する。 (2)</p>			
	<p>◆ドイツ歌曲「野ばら」の速度、強弱、旋律などの特徴を捉え、ドイツ語の特性と曲種に応じた発声や発音との関りを理解する。</p> <p>・ウムラウトや二重母音の口の形や体の使い方を生かして歌唱し、発音の仕方をワークシートⅡに記述する。 ・子音の早めの発音は譜面に直接どの位置で母音が発音されているか教科書に印を入れ、視覚的に理解し、発音する。 ・リズム読みをし、韻を踏んでいるフレーズを意識した強弱の付け方や、曲の速度に合わせた子音の発音を工夫する。 ・旋律の抑揚に合わせて口や身体をどの様に使って、発音や発声に生かすか動画やCDを視聴しながら試す。 (4)</p>	<p>知 <ワークシート></p>		
第二 次	<p>◆ドイツ語の抑揚と「野ばら」の旋律との関わりを感じながら、歌詞の内容が伝わるようドイツ語の語感を生かし、具体的なイメージをもって表現を工夫する。</p> <p>・詩の内容を伝えるにはどのように発音するか考え、表現したいイメージを明確にし、ワークシートⅡに記述する。 ・作詩・作曲者が表現したいであろう詩の内容と伴奏の響きをてがかりにして表現したいイメージを具体的にもつ。 ・お互いの歌を鑑賞し合い、意見を出して、さらに工夫し表現活動に生かす。 (3)</p>		<p>思 <行動観察> <ワークシート></p>	
	<p>◆創意工夫を生かして「野ばら」を歌う。</p> <p>・教材曲「野ばら」を歌うことを通して、感じたことや考えたことを自分なりの言葉でワークシートⅡ記述する。 (1)</p>	<p>技 <行動観察></p>		<p>態 <ワークシート> <行動観察></p>

10 本時の展開・・・第三次第3時

(1) 本時の目標

伴奏の響きを手掛かりにして、歌詞の内容が伝わるようドイツ語の語感を生かし、表現を工夫しよう。

(2) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準 (評価方法)
<p>1 あいさつ</p> <p>2 前時までを振り返り、歌う前の準備や発声練習を行う。</p> <p>3 本時の学習内容と目標を把握する。 (15分)</p>	<p>◇ペアになって、体をほぐす準備体操。</p> <p>◇旋律の音楽的な特徴についての学習を振り返らせる。</p> <p>【目標】伴奏の響きを手掛かりにして、歌詞の内容が伝わるようドイツ語の語感を生かし、表現を工夫しよう。</p> <p>◇本時は作詞・作曲者が伝えたい箇所をどのように表現を工夫するか考えることを伝える。</p>	
<p>4 ドイツ語の語感を生かしながら、様々な形態で読む。 (5分)</p> <p>5 詩の内容と音型に注目し、どのように工夫するのか考える。 (13分)</p> <p>6 ドイツ語の語感を生かしながら表現が工夫されているか、お互いに歌い合ってみる。 (12分)</p> <p>7 本時の学習の振り返りとして、通して歌う。 (3分)</p>	<p>◇前時までの学習のまとめとして、ドイツ語の特性を確認する。</p> <p>〈意見例〉ウムラウト、子音の早めの発音、韻をふんでいる、など。</p> <p>◇楽譜を見ながら言葉と音型がどうなっているか分析し、歌詞を根拠としながら、具体的にどう表現するか考える。</p> <p>◇6小節目の和音を弾き、半音上がっているドッペルドミナントから属調への一時的な転調の効果を感じ取らせる。そこから少年の高ぶる気持ちと9小節目の旋律の動きと10小節目のFreudenの音符の跳躍進行の動きやフェルマータの効果を感じ取らせ、どのように歌うかイメージを持たせる。</p> <p>◇適宜歌いながら感じ取らせる。</p> <p>◇歌い合う前に、1番伝えたい部分を相手に伝えて、歌い合い、相手の良かった所、改善点を発表させる。</p> <p>◇ペアで歌い合うことで、具体的な改善点を気づかせ、自信を持って表現を工夫する意欲を持たせる。</p> <p>〈意見例〉子音がはっきり発音できていた、全体的に声が小さくて聞き取り辛かった。</p> <p>◇これまでに学習したことを踏まえて、最後に「野ばら」を歌わせる。</p>	<p>思考・判断・表現 (ワークシート・行動観察)</p>
<p>8 本時のまとめ (2分)</p> <p>9 あいさつ</p>	<p>◇振り返りシートに記入させる。</p>	

～ワークシート I～

年 組 番 氏名

☆シューベルトとヴェルナーの作曲した曲を聴き比べてみよう。

曲名	Heidenröslein(野ばら)	
作曲者名	フランツ・シューベルト	ハイリヒ・ヴェルナー
演奏形態	Vo、P	
研究		
感想		
備考		

～ワークシートⅡ～

年 組 番 氏名

☆ドイツ語の語感や歌詞の内容が伝わるように、工夫する点を書こう。

Sah ein Knab ein Röslein Stehn, Röslein auf der Heiden,
見た 一人の 少年が 一本の 小さなばら 立っている 小さなバラ ~の上に 定冠詞 荒れ野

war so jung und morgenschön, lief er schnell, es nah zu sehn
~だったそんな 若い そして 朝のように美しい 走った 彼は 早く それを 近くで ~のために 見る

sah's mit vielen Freuden. Röslein, Röslein, Röslein, rot, Röslein auf der Heiden.
それを見た ~とともに 多くの 喜び 小さなばら 赤い ~の上の 荒れ野

① この曲の情景や心情について自分の考えを書こう。

② ドイツ語の語感や歌詞の内容がよく伝わるよう、歌う際自分なりに工夫した点を書こう。

③ 友達の表現を聴いて、良かった点や自分では気づけなかった表現方法などについてまとめよう。

